

1994 年 2 月創刊のカレッジ情報誌『SC コムネット』から 200 号

～ 震災を乗り越え先輩から“たすきリレー”で受け継ぎ発行 ～



創刊号の表紙

■黎明期からスタートダッシュ

1993 年 9 月開校した神戸市シルバーカレッジでは、10 月の入学式の直後からクラブ活動が次々と誕生し、翌年 2 月 1 日に創刊された情報誌『SC コムネット』には、結成されたクラブ数は 28 と記されています。実は『SC コムネット』を発刊した当時の“シルバーカレッジ情報誌編集局”という組織もクラブ形態として志を持った編集スタッフが集まり、「学校当局と学生、学生相互の情報交換を通じて、シルバーカレッジの新しい校風を作る一助に」との思いを通じて編集制作にあたったと、創刊号の編集後記に掲載されています。

発刊は 1 月・8 月を除いた毎月発行という、現在の情報誌編集委員が驚くようなスピード感・熱意でスタートしました。

■阪神・淡路大震災とカレッジ情報誌

1995 年 1 月 17 日 阪神・淡路大震災により、在校生 779 名の内、負傷者 4 名、避難生活 100 名、講師 1 名死亡という被災に見舞われました。シルバーカレッジの校舎に大きな損傷はありませんでしたが、校舎は災害救援物資の配送拠点となり、陸上自衛隊のヘリコプターやトラックが発着し、校舎には救援物資が次々と山積みされていく状況になりました。



震災時の校舎前の救援物資(左)、物資搬入のトラック(右)

このような中で、学生たちの間から“何かしなければ”との思いが起こり、多くの学生が自主的に救援物資の搬入、しあわせの村内の仮設住宅への支援などボランティア活動に参加しました。

一方、カレッジ情報誌の定期号は休刊となりましたが、震災翌月の 2 月には臨時号『がんばれコムネット』を発行し、在学生の避難先・連絡を掲載、被災禍状況の取材活動を行っています。その後も休校中の自主学习情報などを掲載しています。

※本稿掲載にあたり、「シルバーカレッジ 10 年の歩み」、「シルバーカレッジ 20 周年記念誌」、「爽風 152 号」から一部引用しています。
 ※創刊号から『爽風』200 号までのバックナンバーのリストを委員会ホームページ <https://ksc-sofu.net/> に掲載しています。

200 号発行に際しての新年のごあいさつ

皆さま、新年あけましておめでとうございます。

昨年 4 月、当委員会の代表を引き継いでから、早や 1 年が過ぎようとしております。幸運にも、節目となる記念すべき 200 号の『爽風』発行に携わることができ、大変嬉しく思っております。

今まで滞りなく、情報誌の発行を続けていただいた諸先輩の方々には感謝、感謝です。

■ボランティア元年とカレッジの学生活動

全国的にもこの震災をきっかけに被災地を支援するボランティア活動が立ち上がり、後に 1995 年は「ボランティア元年」と呼ばれるようになりました。

カレッジ在校生も関係者の多くが被災したにもかかわらず、“できる者ができることを・・・”、という気運でボランティア活動に参加し、同年 8 月には「神戸市シルバーカレッジ・ボランティアセンター」が誕生しました。

■その後のカレッジ情報誌

同年 10 月から、ようやく授業が再開され、カレッジ情報誌も同年 12 月から復刊しました。その後 2006 年からは、全学年全クラスから選出される委員会組織に移行しました。

また、現在の情報誌名称は学内応募により選考し、2009 年 5 月の 130 号から『爽風』としています。

■200 号、これからの『爽風』

現在の情報誌編集委員会の運営役員は 2 年生が 1 年間の任期で、次年度の 2 年生に“たすきリレー”で受け継いでいます。カレッジ情報誌の創刊、震災時の情報発信など私たちの先輩がご苦労された精神を受け継ぎながら、在校生および関係者にとって必要とされる情報媒体となるよう、本 200 号を編集するにあたり気持ちを新たにしました次第です。

(編集責任者 25 期 辻本 憲和)

この 1 年、卒業式、入学式、ジョイラックデー、学園祭等の行事が開催されるごと、「爽風」の発行日に間に合わせるため、情報誌編集委員が一丸となり乗り切ることができました。これには、カレッジの事務局始め、在校生、クラブ・団体等のご協力とご理解があったからに他なりません。改めて厚くお礼申し上げる次第です。今後共、情報誌「爽風」発行へのご協力とご鞭撻をお願いいたします。(情報誌編集委員会代表 25 期 知地 正紘)